

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 「子どもがつくるまち ミニきりゅう」の展望について

参加者

ミニきりゅう実行委員会 11名

桐生市長

傍聴者 2名

報道機関 2名

日時：令和7年1月29日（水）午後6時30分から午後7時30分

場所：桐生市立青年の家 2階講堂

1 開会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議題

「子どもがつくるまち ミニきりゅう」の展望について

意見交換のポイント

- 「ミニきりゅう」の取組の充実について
- 「こどものまち」の聖地化を目指して等

5 閉会

当日の資料 (ミニきりゅうについて)

令和7年11月29日(水) 午後6時30分 まちづくりミーティング資料

「子どものつくるまち ミニきりゅう」について

① ミニきりゅうについて



ミニきりゅうとは

地域の将来を担う子ども(小学生)を対象とし、自分たちが暮らすまちに興味を持ち、今よりもっと地元を好きになってもらえるような事業



開始年度

令和3年度から



② ミニきりゅうの開催結果概要

開催年	開催日	参加者(2日間合計) (対象:小学生1~6年生)	仕事数
令和3年	11月6日(土)~7日(日)	360名	40ブース
令和4年	11月5日(土)~6日(日)	573名	33ブース
令和5年	11月5日(土)~6日(日)	854名	45ブース
令和6年	11月9日(土)~10日(日)	1,107名	49ブース

ミニきりゅう実施体制(令和4年~)

- 主 催: ミニきりゅう実行委員会
- 共 催: 桐生市
- 後 援: みどり市/桐生市教育委員会/
みどり市教育委員会/
(一社) 桐生青年会議所



ミニきりゅうの中で使えるオリジナル通貨「ミニル」

③ 【参考】ミニきりゅう2024 開催概要



日 時

- 令和6年11月 9日(土) 10時から16時
- 令和6年11月10日(日) 10時から15時30分



場 所

- 桐生市立青年の家



対象・人数

- 小学校1年生~6年生
各日550名



子ども会議

- 子どもたちがミニきりゅう開催に向けて準備を行う場
- 5月から10月まで7回開催(子ども参加者70名)



市長による冒頭挨拶



① ②

本日(市長)は開催テーマを『子どもがつくるまちミニきりゅう』の展望についてとし、皆さんからご意見を伺い、この公民連携事業の更なる進展を図ってまいります。

今回、意見交換のポイントとして「ミニきりゅう」の取組の充実について及び「子どもたちの聖地化」を指す「ミニきりゅう」の現状や開催結果について、説明いたす。



理事長から事業説明



(ミニきりゅうの現状や開催結果など)

③ ④

○事業説明
ミニきりゅう実行委員会理事長より、「ミニきりゅうの現状や開催結果」について説明を行った。
説明内容については資料参照(③④)。



今後はブースの充実に取り組みたい

(意見)
 令和3年度の事業開始から沢山の子ども会議卒業生が出てきています。その子どもたちから意見をもらったり、当日手伝ってもらったり、生が今もミニきりゅうに携わってくれていること、今後も携わりたいという気運があることは素晴らしいことだと思っております。成長を実感している。今後の展望としては、子どもたちが希望しているブースを増やして内容を充実させるなど、より楽しめる内容になるよう取り組んでいきたい。

(市長)
 OB・OGが関わってくれているという、ミニきりゅうのすそ野の広がりをうれしく思う。

③



(市長)
 それでは、実際にミニきりゅうの運営に当たっている実行委員会の皆様より、取組の充実化や聖地化を目指した今後の展望について、普段考えていることなど忌憚のないご意見をいただきたい。

①



(オリジナル通貨【ミニル】)



ミニきりゅうの経験が郷土愛に！

(意見)
 ミニきりゅうを小学生の時に経験することである桐生市に『まち』の郷土愛が育まれると考えている。その気持ちがあれば将来大学などで桐生から離れても桐生に帰ってきて『またミニきりゅうをやってみたい』という気持ちになるのではと思う。聖地化については、何回も回数を重ねていけば聖地化につながると思う。

(市長)
 郷土愛はミニきりゅうのキーワードである。ミニきりゅうをきっかけとして自治意識や桐生への郷土愛を持ってもらえれば、人口減少対策として子どもたちが戻ってくるきっかけになると考えている。

④



我々にも毎回新たな気づきや学びがある

(意見)
 ミニきりゅうの魅力は、実施内容をゼロから子どもたちが考え、準備も極力自分たちで主体性を持ってやっているとところや手弁当感が強いところだと思っている。

また、毎回ミニきりゅうの開催を通して実行委員会側の我々大人にも『気づき』や『学び』があるので、子どもたちだけでなく我々も成長させてもらっている。回数を重ねる度に課題が改善され、子ども主体の事業に進化している。ミニきりゅうはまだまだ伸びしろがある。

(市長)
 ご意見のとおり、子どもたちが自由にできるように見守る大人たち(実行委員会)も素晴らしいと思う。

②



桐生の良さを子どもたちにも味わってほしい

(意見) ③ 桐生は楽しいし、ご飯もおいしいし、住みやすい。だから住んでほしい。その気持ちをこめからの桐生を担う子どもたちにも体感してもらいたいです。きっかけを作った意味でもこのミニきりゆうという事業を継続したいと考えている。少子化が進む中で参加者が増えていく現状は、それだけ興味を持ってくれる子や保護者が多いということである。色々運営面は大変であるが、しっかり体制を整えてまだまだ人数を増やせるようにしたい。

(市長) 子どもが集まる理由は楽しいから。その楽しい土壌を皆さんに作っていただき感謝している。



市内のお店でミニルが使えたら...

(意見) ① 今後の充実化については、市内のお店や行政サービスをミニきりゆうを連動させられれば良いと思う。例えば、通貨のミニルを実際に市内のお店で使えれば、子どもたちがまちに関心を持ってくれるきっかけになると思う。聖地化に関しては、最近桐生市が力を入れているデジタル分野などでコンテンツを作るのも面白いし、メディアの力を借りて子ども会議でミニきりゆうの事業内容が決定していく過程を報道してもらうなど、新たな取組も必要だと思う。

(市長) ミニルが実際のお店で使えるのは面白い。今後は仮想空間とリアルとの連動性がキーワードになると思う。



オリジナルメニューが市内のお店で食べられたら...

(意見) ④ 参加者が増えるのは有り難いが、それよりも『一人一人の満足度を上げたほうが良いのでは』という意見もある。今後は内容の充実について今後みんなと協議していきたい。また、新たな取組としては、飲食ブースで作ったオリジナルメニューが実際の市内のお店で食べられたらよりミニきりゆうを感じられるし、そこでミニルが使えればなお良いと思う。地域の方とも連携できるし、当日入場できない親御さんにもミニきりゆうを感じてもらえるのではと思う。

(市長) 人数を増やすことだけがイベントの成功ではなく、一人一人の満足度を高めることも確かに大切なことである。



設備関係の充実も必要では？

(意見) ホームページで参加者の募集などを担当しており、毎回参加があるか不安であるが、結果として有難いことに沢山の申込みを頂いている。桐生市の共催があり、色々助けてもらっているのも大きい。見込みを超える申込みがあるのはやはり事業に魅力があるからである。今後は参加人数の上限もあるが、特に食事ブースでは設備関係の充実が必要ではないかと思う。

(市長) 聖地化については、これからOB・OGが増えてくるので携わる人が増えていけば、より良いアイデアが出てくると思う。

私も内容の充実には、働くブースの工夫が必要であると感じている。



青少年課の皆さんの協力に感謝



保護者から『子どもたちのためにありがとう』

(意見)

情報管理を担当しているが、最近メールの内容に変化を感じている。保護者の方からはクレームではなく、「子どもたちのためにありがとう」といった感謝のメールが届くので、大変うれしく思っている。今後は保護者から子どもたちに『桐生っていいところですよ』と普段から伝えてもらえるようなミニきりゅうの発展を目指していきたい。

また、子どもたちからも『楽しかった』という内容のメールが届くこともあるのでやりがいを感じている。

(市長)

子どもたちはミニきりゅうの良さを保護者の方に伝えていて保護者も感じていると思う。

(意見)

ミニきりゅうは我々実行委員会が主催しているが、桐生市の協力が絶対に不可欠である。特に担当してくれている青少年課の皆さんの協力は必須であり、ミニきりゅうは実行委員会と青少年課が両輪となって開催できているものと考えており大変感謝している。

③

(市長)

ブースに関しては、現在は各ブース30分一回しでやっているが、参加者も仕事数もほぼ上限に達していると思うので、可能かどうかは別として20分一回しても良いのではと相談している。こういった試みも必要だと思う。

お褒め頂き有難い。青少年課長から意見があれば発言してください。



成功の秘訣は【信頼関係】

(意見)

市長ブースを担当したが、子どもから『ポケモンとコラボして何かできないか』という案が出た。良い案であったが、短い準備期間の中で大手企業との連携は難しいと考え話が進まなかった。今後そういった場合は、市や企業さんと共に進められれば有難いと思う。また、今回も高校生がボランティアで参加してくれたが、2年前に参加してくれた市外に住む高校生から『大學生になっても参加したい』との依頼があったと聞き、本当につながりを感じている。

(市長)

ミニきりゅうを通じて、市外の方が桐生市とのつながりを継続する点は大変素晴らしいと思う。

(青少年課長)

過日の両毛六市議員懇談会という研修会の事例発表でもお話ししたが、ミニきりゅう成功の秘訣は、『実行委員会の皆様と桐生市との信頼関係』それしかないと思っっている。実行委員会からは難しい要望や調整が必要な相談事も多々あるが、十分議論・協議しながら解決策をとるに導き出すことができている。これからの良好な関係性を保ちたいと考えている。

(市長)

最後、総括として理事長にご意見をお願いしたい。



参考：当日の次第

まちづくりミーティング

開催テーマ 「子どもがつくるまち ミニきりゅう」の展望について

まちづくりミーティングとは

日時：令和7年1月29日（水）午後6時30分から
場所：桐生市立青年の家 2階講堂

“共感”、“共創”が実感できるまちづくりを進めるため、開催テーマに対して招集させていただいた皆様と市長が直接意見交換をしながら、共に地域課題の解決や新たな取組等を創造していくことを目的に開催するもの

1 開会

2 あいさつ

3 議題 「子どもがつくるまち ミニきりゅう」の展望について

意見交換のポイント

- 「ミニきりゅう」の取組の充実について
- 「こどものまち」の聖地化を目指して 等

4 閉会



まちづくりミーティングについて

「まちづくりミーティング」は、“共感”、“共創”が実感できるまちづくりを進めるため、開催テーマに対して招集させていただいた皆様と市長が直接意見交換をしながら、共に地域課題の解決や新たな取組等を創造していくことを目的に開催するものです。

【運営ルール】

1. お互いを尊重し、意見交換ができるよう、雰囲気づくりを心がけてください。
2. テーマ内容について共に何ができるかを考える場ですので、個人・団体の要望はお控えください。
3. 特定の個人に対する誹謗・中傷や宗教、営業に関することは、控えてください。
4. 開催時間は概ね1時間とします。
5. 会議は原則公開とします。



子ども市長が本当の桐生市長になったら嬉しい

① 最近では地元のお店の協力をお願いすることが多くなり、子どもたちが市内のお店にもつながりを持つてくれている。また、回数を重ねる度に子ども市長の公約も変わり、「こういうことをしたらこうなる」とより具体的に『まち』が良くなる手段を公約に掲げる候補者が増えてきているので、ミニきりゅうで市長になった『子ども市長』がいずれ本当の『桐生市長』になつてくれたらこんな嬉しいことはない。

② 来年は、節目の5回目ということで子どもたちにもっと桐生を好きになってもらえよう、内容と地域を巻き込む環境づくりの傾向に傾注

(意見)



今日の意見を今後に生かしていきたい

③ 実行委員会の皆さんのおかげでミニきりゅうがここまで成長できたのだと思う。今後は継続しながらも、新たな『気づき』により改善を繰り返していくことで聖地化が見えてくると感じたところである。

④ 最後に、本日は貴重な意見を頂き感謝したい。市としても今後検討を深め、ミニきりゅうの更なる充実や聖地化に向けて連携を強化していきたい。

⑤ 実行委員会の皆様には来年度以降の開催についてもご支援、ご協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。

(市長)

